



< 東部療育センター メールマガジン 2009年2月号 >

障害児（者）の方への情報提供を行い、生活支援を目指します。

発行 東京都立東部療育センター

<http://www.tobu-ryoiku.jp/>



新しい年が始まり、あっという間に1ヶ月が過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか？
今回は口から食事をとれない方や食べてもむせ込んで肺炎などをおこしやすい方に直接胃に栄養を入れる方法である「胃瘻（いろう）」についての情報をお届けします。

重症心身障害の方にも広く行われている方法で、栄養が十分に摂れる事により健康状態が大きく改善される方もいます。

執筆は東部療育センターにも非常勤で勤務されている土岐医師です。



胃瘻とその管理

昭和大学医学部 外科学講座 小児外科学部門

土岐 彰

胃瘻は「おなかにつくる小さな口」と表現されます。内視鏡の挿入が可能な場合は、PEG（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy：経皮内視鏡的胃瘻造設術）を行いますが、以下の理由で不可能な場合は開腹による胃瘻造設術を行います。1) 食道、胃噴門部の狭窄のため内視鏡挿入が不可能な場合 2) 大量の腹水貯留がある場合 3) 極度の肥満や著明な肝腫大がある場合 4) 高度の出血傾向がある場合などです。今回はその胃瘻での局所トラブルと対処法について述べてみたいと思います。

1. 不良肉芽：

胃瘻周辺に粘膜様の組織が増殖した状態で、黄色の粘液が付着し、接触により容易に出血しますが、痛みは通常伴いません。

原因は、1) 胃瘻孔周囲の不潔や糸などの異物による炎症 2) 胃瘻チューブやボタンによる機械的刺激 3) チューブサイズの不適正などです。

対処法は、不良肉芽が大きくなり、出血などがある場合は、硝酸銀液による焼灼や結紮（けっさつ）などで外科的に切除する方法があります。多くの場合は、カテーテルがきつく固定されており、ボタン型ではサイズの長いものと交換したり、チューブ型ではストッパーを少し緩めることで解決されます。また、カテーテルの固定や向きを工夫して、なるべく皮膚がこすれないようにすることも重要です。

メールマガジンの感想や取り上げてほしいテーマ等ありましたら、下記の問い合わせ先にご意見をお寄せ下さい。

-
- ◆ このメールは msw_trc@mtrc.jp のアドレスより配信しております。
 - ◆ 送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。
-

発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>

問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/mailphp/inquiry.php>

〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

- 配信がご不要の方は、下記URLにアクセスして下さい

<http://www.tobu-ryoiku.jp/info/mailmagazine.html>
